

第三主日礼拝

【第一部】 午前 9:00-10:00

【第二部】 午前 11:00-12:00

(第二部は YouTube 同時配信)

前奏・黙祷

招 詞 詩篇 18 篇 31-33 節 (旧約 948)

賛 美 暗やみに輝く灯 (教会福音 129)

交 読 詩篇 106 篇 24-48 節 (旧約 1047)

主の祈り・使徒信条

聖書朗読 ヨハネの福音書 19 章 25-30 節 (新約 226)

さんびとあかし

菅野ファミリー

牧者公祷 (換気を行います)

説 教 『完了した』

松井元始牧師

応答のとき

賛 美 ひとりの御子さえ (教会福音 130)

感謝祈禱

頌 栄 父・子・聖霊の (教会福音 271)

祝 祷

後奏・黙祷

*

*

*

報 告

【献金は週報に添付の封筒を用いて、入口の献金かごにお入れください】

〈司会〉

〈奏楽〉

〈受付〉

〈聖書朗読〉

〈感謝祈禱〉

【第1部】

【第2部】 松井師 牧子師

司会者

インマヌエル王子キリスト教会

牧師: 松井元始・牧子

〒114-0023 東京都北区滝野川 1-41-6 Tel 03-3910-4529

HomePage: <https://igm-ouji-church.jimdo.com/>E-mail: immanuelojichurch@gmail.com

銀行振込: みずほ銀行 王子支店 普通 1364893



『完了した』 (ヨハネの福音書 19 章 25-30 節) 2023.3.19.

<はじめに> イエスが十字架の上で発した 7 つの言葉が聖書に記録されています。①ルカ 23:34、②ルカ 23:43、③ヨハネ 19:26-27、④マタイ 27:46・マルコ 15:34、⑤ヨハネ 19:28、⑥ヨハネ 19:30、⑦ルカ 23:46。本書に記された 3 つのことばから十字架上の主イエスの思いに近づきます。

I 「あなたの息子、あなたの母」(25-27)

① そばにいた女性たち(25)

掲架されたイエスに近づいた勇敢な女性たちがいました。イエスの母とその姉妹(ゼベダイの子らの母?)、クロパの妻マリア(小ヤコブとヨセの母?)とマグダラのマリアです。愛する弟子がゼベダイの子ヨハネ(本書の記者)であるなら、イエスといとこの関係になります。

② 責任を委ねる(26-27)

イエスを捨てて逃げ出した弟子たち(マルコ 14:50)のうち、愛する弟子だけは十字架の下に再び現れます。イエスは、母と愛する弟子を見て、それぞれに短く語り掛けます。長男として担うべき母の今後をヨハネに託し、母には彼を息子同様に信頼するよう告げます。

③ 息子として

イエスは母への気遣いと果たせぬ責任を案じていたことが読み取れます。自分が果たせないことも他者に引継ぎ委ね、つなげていく大切さをイエスは熟知しておられました。限られた時間と言葉で、誰に何をどう託し伝えるかは、私たちにも共通の課題です。

II 「わたしは渇く」(28-30)

① イエスは…知ると(28)

母マリアを愛する弟子に託せたことで、いよいよイエスの生涯に与えられた使命は完了を迎えます。深夜の捕縛、夜通しの審判、満身創痍で十字架を背負い、手足の釘から血が流れ出続ける中で、イエスは深い渇きを覚えて「わたしは渇く」と発されました。

② 聖書を成就するために(28-30)

十字架前に差し出された「苦み(没薬)を混ぜたぶどう酒」(マタイ 27:34、マルコ 15:23)には鎮痛効果があり、それをイエスは拒まれました。「酸いぶどう酒」は渇きを和らげる安価な物で、こちらは受けられました。苦しみの中でも詩篇 69:21 の成就を意識されたのです。

③ 人として

渇きは人が抱く最も強い欠乏感と言われます。イエスは肉体の渇きとともに詩篇 42:1-2 にも見られる神への霊的渇きをも覚えられたとも解せます。詩篇 32:3-4 にある神から離れた者の渇きに通じます。人としての渇きをイエスは味わい尽くされた御方です(ヘブ 2:18)

III 「完了した」(30)

① 勝利の宣言

イエスの「完了した」を「万事休す」と誤解する人がいます。十字架に釘付けられ、いのちの灯が消える間際のことばだからでしょう。見かけは敗北者・罪人のようでも、神の計画はイエスによって着実に成し遂げられ、今や完成に至る勝利の宣言です。

② 救い主として

十字架でイエスは人類の罪を一身に引き受け、その負債を自身のいのちで払われました。また罪の結果である死をも引き受けられ、自身の復活をもってこれを破られます。このイエスを私の救い主と信じ受け入れる者に神の家族への回復の道が開かれました。

③ 頭を垂れて霊を渡す

イエスの最期の姿は、信頼し任せる者の態度・姿勢に通じます。自分ではどうすることもできないことを、そのまま一人抱えていてもそのままです。私たちにはそれらをお任せできる救い主が与えられています。すべてを神の愛の御手に委ねるこそ勝利者です。

<おわりに> 二千年前の十字架で、神が歴史の中に打ち建てられた救いの道は完成しています。あとはこれを一人ひとりが自分のものとして受け取り、手放さずに最後まで握り続けることです。十字架を全うされたイエスの足跡に倣い進もうではありませんか(マタイ 16:24)。(H.M.)